View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

8. CT 撮影室における新人教育

深谷赤十字病院　○齋藤　幸夫、登坂　崇史、小島　萌、清水　文孝

【目的】

CT 撮影では嘔吐や気分不快を始め様々な副作用を経験する。若手技師や普段 CT 検査に従事していない技師は副作用発生時の対応経験が少なく、連絡体制や役割を把握しておらず速やかな行動が出　来ない事もある。そこで今回、医療安全を主とした CT 撮影室における新人教育を考案したので報告する。

【方法】

平成 27 年度に入社した新人技師に対して、CT 検査に携わる 2 週間前に当院の副作用症状別割合、患者急変時の対応手順、シミュレーションの様子（ビデオ）の教育を開始する。次に実際に操作室で撮影している様子のビデオを見ながら、目線、手の置く位置、どこに気を配るかなどを学び、CT 検査に携わる準備を行った。なお使用機器としてウエアブルカメラを熟練した技師の目線に取り付け実際の操作室での様子を写した教育用ビデオを作成した。

【結果】

CT に携わった初日から造影検査に対応させたところ、安全を意識する行動をとることが出来た。また本人から、経験はないが副作用や造影剤漏えい、患者の顔色を意識することで最悪な事態への準備をいつも考えながら検査をしなければならいとの感想を頂いた。

【考察】

熟練した技師目線は、気遣いや経験でしか学べない事が多く、様々な角度からの目線で検査を行っている。それを取り入れた新人教育ビデオは、医療安全に大いに役立つものである。今回は CT 検査での教育でしたが、今後、消化管検査や他部門にも取り入れ、更なる医療安全を意識した新人教育を目指していきたい。